



気になるあいつ  
わかぎゑふ

双葉社

## 気になるドア

「どこでもドア」という言葉。そうドラえもんが使ってるあのドアである。昔からとても魅力的だと感じてきた。どこにでも行ける魔法のドア。そんなものがあつたらなんて素敵なんだろう。

芝居ではよく「ドアさえあつたらいいから」とか、「どこかドア持つてる劇団ないかな」とよく言う。芝居の場合はドアだけ置くと、そこが家の中になったり、外になったりするからだ。知り合いのコントをやる劇団は、ドアだけは数枚持っていて重宝している。演劇的には便利なツ

ールだ。一度、家の展示会を見に行った時に、ドアだけの見本が置いてある場所があり、「これ一枚くれなかな」と見入ってしまった事がある。

ところで、前々からとても気になるドアがある。家の近所なのだが、写真を見ていただいたらおわかりのように、ある空き地の端っこにドアとその周りの壁だけがあるのだ。

それは時々行くイタリア料理店の近くにあり、ドアとしての役目をまったくはたしていない。だって、ドアを通らなくても、普通に空き地に入れるからだ。いったいどんな理由でドアだけを残してあるのだろうか？そこを開ける意味もなにもないのに。前には家が建っていたのだろうか？ なにかいわくがあって残ったのだろうか？ 例えば占いとか、呪いとか？？？

と、疑問は尽きない。そんな開ける必要のないドアなので、ひよっとしてわざわざ開けたら別の世界にでも通じているかのようだ。

昔、勤めていた会社の中に4階のベランダの隅にドアはあるけど、開けたらそのまま外に直結していて、間違つて一步でも踏み込もうものなら真逆さまに落ちてしまうという危険なドアがあった。あれもなんでわざわざドアがついてるのか、理由が分からない謎のドアだった。

意味がないと分かれれば開けなければいいのだが、どうもドアの形をしていたら開けたいと思う。それが都会の人間の性分なのだろうか。5年ほど前に家を建てたのだが、すのこ状になって下が見える廊下とか、隣の実家に繋がる渡り廊下とか、角度によると白く曇りのかかるガラスをはめ込んだ窓とか、そんなものには凝ったのだが、ドアには気がつかなかった。こんなことなら変なドアの一枚くらい作っておけばよかったです。思っている。

あなたには気になるドアはありませんか？

---

【著者略歴】

わかぎさるふ

1959年、大阪府生まれ。女優、エッセイスト。1986年より故中島らも氏とともに劇団「リリパット・アーミー」を主宰し、現在同劇団の進化形「リリパット・アーミーⅡ」の座長。1994年より演劇ユニット「ラックシステム」を旗揚げ。演劇制作会社「玉造小劇団」を運営し、女優のみならず、脚本、演出、メイクから衣装まで芝居全般にわたりその才能を発揮し続けるスーパーレディ。主な著書に『すみっこのすみっこ』『女体の神秘』『秘密の花園』『ぬくい女』『イブの抜け穴』『大阪弁の詰め合わせ』など多数。

---